

望月慎一郎

piano

沢田穰治

contrabass

※通常の半分以下、12名限定にて入場制限を行っています。
※マスクの着用を必ずお願いいたします。
※ご入場の際、備え付け、又はご持参の消毒液にて手を消毒して下さい。

2020 08月22日(土)

開場 13:00 afternoon live

開演 13:30

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC=3000円 + 2drinks order

CAFE BEULMANS

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



望月慎一郎

1980年、静岡県生まれ。幼少から音楽に触れ、6歳で曲を書きはじめた。13歳の頃には海外でも自作曲を披露し、既に作曲は日常のものとなっていくなかでジャズに出会い、以降は独学で研究を重ねている。尊敬する宇宙飛行士らの影響を受けてエンジニアへの憧れもあったため音楽大学ではなく工学部へ進学し周囲を驚愕させたが、在籍時は放射線管理区域で実験を繰り返す毎を送りながらも音楽創作活動を継続しヤマハ講師グレードも取得、音楽研究を片時も忘れなかった。現在は長野県で半導体・電子部品等の開発技術者を生業としながら、欧州ジャズに近い演奏スタイルを取り入れ、独自の的方法論を研究し自作曲の創作活動を精力的に続けている。2017年、ピアノトリオによる大作アルバム「Visionary」(SONG X 047)をリリース。2018年、橋爪亮督(sax)をフロントに向かえた「Another Vision」(SONG X 054)をリリース。

沢田穰治

ChoroClubのベーシストでありながら、様々な楽器を愉しむ。その活動は幅広く、ジャンルにとらわれない活動を続けながら様々なアーティストのプロデュースや映画、アニメ、ドラマなどの音楽制作なども多い。近年の作品にはアントニオ・カルロス・ジョビンの作品集「Canta Jobim」、2011年の震災を受け止めて音楽として昇華した「NO NUKES JAZZ ORCHESTRA」、 「武満徹ソングブック」等、最近ではジャズギタリスト馬場孝喜「Gray Zone」、日本初録音となるジョージ・クラム作曲『マクロコスモス II』や島山美由紀「歌で逢いましょう」などをプロデュース。アレンジャーとして今までおたか静流、川本真琴、フィッシュマンズ、忌野清志郎、太田裕美、パッパアロードーター、上間綾乃、松下奈緒などほか、多数手がける。活動においてはアルゼンチンやブラジルの音楽家からの信頼もあつく、レコーディングやセッションを重ねている。直近でのリリースでは高木正勝、渡辺亮、馬場孝喜など京都ゆかりの音楽家と共に制作した「Closeness Ensemble of Kyoto/ WaBaSaTa」が song x jazz からリリース。